

K S K Q まほろば会報

NO. 126 2025年9月3日
毎月3日発行 定価1部200円
編集人 特定非営利活動法人
奈良県精神障害者家族会連合会 (まほろば会)
〒630-8357 奈良県奈良市杉ヶ町 20-2
更谷アパート1階西
TEL 090-9213-2731 FAX 0742-51-5506

8月8日 奈良県アウトリーチ事業研修会

岡山県精神保健福祉センター アウトリーチの経緯と課題

奈良県は アウトリーチチーム創設にむけて事業準備として2025年度予算に100万円を計上しました。

この日の研修会は、先進県である岡山県精神保健福祉センターの事例を聞くために奈良県医療政策局疾病対策課が開催しました。

講師には、岡山県精神保健福祉センター所長の野口正行氏と同センターの地域支援科科長の高桑友美氏にお越しいただき、講演と質疑に应运っていました。

研修会参加者は、精神科病院の医療従事者、市町村の保健福祉関係職員、保健所関係職員、精神障害者の地域生活を支えている支援者、精神障害当事者とまほろば会から9名、合計70名が参加しました。

野口正行所長の講演は、センターが実施してきた「アウトリーチの経緯と課題」をテーマに87ページに及ぶパワーポイントに沿って講演されました。

岡山県の1999年から現在まで26年にわたる経験を踏まえた講演の概要は次の通りです。

■アウトリーチ支援の必要性

支援につながりにくい、重度の精神保健ニーズを抱える人たちに支援を届けるためには多職種アウトリーチ支援が有用。

■センターによるアウトリーチの実施状況

- ・運営はセンターが直営 (4精神科病院に委託あり)
- ・スタッフは、医師3名、精神保健福祉士1名 (会計年度任用職員)、保健師3名 (内1名は会計年度任用職員)、心理士1名、看護師3名 (3名とも会計年度任用職員)

■2024年度の事業実績

- ・対象者数は、精神疾患が疑われる未受診者7名 (内2名は終了)、引きこもりの精神障

害者 (疑い例含む) 7名 (内1名は終了)、その他11名 (内2名は終了)

- ・訪問、ケア会議等は、訪問件数がのべ308件、ケア会議50件、電話相談・他機関調整が710件

■アウトリーチ支援の実践から見えてきたこと

- ・多職種アウトリーチと多機関ネットワークが支援の基本骨格
- ・事例検討会からの導入やケア会議などを通して、関係者の情報共有や意思疎通を図ることが大切

その他、当事者中心の支援など多岐にわたる講演でしたが、紙面の都合で割愛します。

【講演後の質問】

「奈良県は、岡山の先進県とは異なり、アウトリーチ事業の導入を前にしている現状です。夜間休日に症状が悪化した時はどのように対応されますか。また、奈良県でも保健所が窓口となり、アウトリーチの導入と終了の判断に対応することを考えていますが、岡山の具体的な対処内容を聞かせてください」

【高桑友美科長の回答】

「休日夜間の救急対応は精神科救急センターに任せています」「保健所が事例検討会を開いて生活支援の必要性を判断して導入を決める。終了は地域支援につながったとき。保健所とセンターは密接につながっています」

野口所長の講演は、全く経験していない奈良県の関係者にとっては、20数年を経た現状の課題と共に、当初はどのような制度でスタートして、どこで、どのように見直しを行ってきたのかについて具体的に触れてもらいたかった、と思いました。

当日配布資料の「アウトリーチマニュアル～地域支援の実際 (第3版)」が一般公開版されています、参照してください。

9月6日のみんなねっと京都大会を前に交通運賃プロジェクト会議が開催され、JRや大手私鉄の100km以下の割引制限撤廃などこれからの取り組みについて協議されたニュースの転載です。

JRなど運賃割引推進ニュース



2025年9月1日(月) No.100号 発行：全国精神保健福祉会
交通運賃割引全国運動推進PT 座長：新銀輝子 事務局長：奥田和男
連絡先携帯電話 090-3845-3247 Eメール okuda.kazoku@kcn.jp

2025年8月21日 みんなねっと交通運賃プロジェクト会議

交通運賃割引運動のこれからの取り組みを確認

9月6日開催のみんなねっと京都大会 交通運賃分科会では、「交通運賃割引運動のこれまでとこれから～身体・知的との格差解消から、障害者のニーズに基づく割引制度を目指して～」をテーマに開催します。

これまで私達は、身体・知的との格差解消を目指して運動を進めてきました。しかし、身体・知的を含めた障害者割引の制度そのものに問題があり、これからは、100km以下の割引制限などを撤廃して、障害者のニーズに基づく制度への改善を目指した取り組みが必要です。

この日のプロジェクト会議では、みんなねっと京都大会を前に、これからの目指すべき割引制度と取り組みについて、次の内容を協議・確認しました。そして、京都大会分科会に関しては、参加者の皆さんと共に実現に向けた議論を深めてもらいたい、と要請されました。

1、具体的な割引制度の改善について

- ・日常生活で利用できない100km以下の割引制限を撤廃すること。
- ・第一種、第二種の区分をなくし、介護者と共に利用した時は手帳所持者と介護者を割引対象にすること。
- ・新幹線の特急料金も割引の対象にすること。

2、切符購入システムの見直しについて

無人駅やワンマンカーの時代に合わせて、こども切符のように「福祉切符」として利用しやすく、かつ、システムに費用のかからない仕組みにすること。

3、鉄道事業者が求める「割引拡大に伴う財源に公的助成を」に関する対応について

原昌平さんが「鉄道の土台とバス路線の維持に国費を」の提言をしてくださいました。この提言に基づいて、鉄道の土台とバス路線の維持に国費を投入することを、事業者と一緒に求めてはどうか。

4、これからの活動の進め方について

- ・精神障害当事者との連携
- ・身体障害者・知的障害者団体との連携

まずは、JDFを通じた共同声明？

鉄道事業者との懇談。本社のある各ブロック、都道府県連で連携して働きかける。

国土交通省との懇談。日常生活で利用できない100km以下の制限について、なぜ放置されてきたのか、どうすれば撤廃できるのかなど、ニーズに基づく制度への改善について。

5、その他

- ・割引制度の必要性について
なぜ、割引を求めるのか、「所得が低い」「社会参加の促進」など、改めて議論が必要

松葉会「CVPPP」学習会 7月9日 やまと精神医療センター

～包括的暴力防止プログラム (CVPPP) の講演を聞いて～



CVPPPって何?



※CVPPP (シーブイトリプルピー)

松葉会は、患者さんとスタッフ双方の安全・安心を守る「CVPPP」について、やまと精神医療センターの協力のもと、学習会を開催しました。講師は、病棟勤務のインストラクターの資格を持つ現役看護師2名の方です。

CVPPP (包括的暴力防止プログラム) は、患者さんを“抑える”のではなく“助ける”ことを理念とし、支援者は患者さんにとっての味方であり尊厳を守るケアを実現するための包括的な支援方法です。

講演では、単に興奮状態や暴力行為の瞬間だけを見るのではなく、その前後の状況や背景 (入院前や過去のトラウマ等も) を丁寧に振り返り、なぜイライラしている状態や興奮している状態になっているのか、なぜその行為に至ったのかを一緒に考える姿勢を大切にしていると説明を受けました。

また、スタッフが一方的な説明や説得ではなく「味方である」という姿勢を示し、患者の気持ちに寄り添い共に考えることで患者の不安や恐怖心を和らげること、さらに緊迫した状況でやむを得ず身体サポートを行う際も痛みや苦痛を伴わない安全な方法を用いる必要性が説明されました。

具体的には、スタッフ3名以上で協力し、関節の可動域を考慮したサポート技術を身につけること、患者さんの身体に意識を向けて恐怖や不快感を与えないことなどが示されました。「抑える」ではなく「守る」という視点を徹底し、接触の際も優しい手で触れることを意識されているので患者は痛みを伴いません。

研修を受けた家族の感想を紹介

研修に参加した家族や関係者からは、以下のような声が寄せられました。「患者を人として尊重する看護師の姿勢に感銘を受けた」「身体サポートの実演を見て、相手の尊厳を守る技術だと感じた」「患者さんだけでなく、その

場にいる全員がケアの対象という理念に気づかされた」「スタッフが落ち着いて声をかけ続けることで安心につながるということがよくわかった」。

また、統合失調症など精神病性症状による幻覚や妄想が暴力行為につながる場合の対応についても学びました。相手をコントロールするのではなく、自分自身を落ち着かせて対応すること、そして「今どうすればよいかを一緒に考えている」と患者さんに伝えることで信頼関係を築けることが紹介されました。

参加者の中には、「精神科病院は鎮静剤や拘束で対応するという先入観があったが、この研修で覆された」「患者さんを安全に支えるだけでなく、尊厳を第一に考えているとわかり安心した」という意見もありました。さらに「奈良県でインストラクターが4名、そのうち3名がやまと精神医療センターに所属していることに驚いた」「この理念やプログラムが奈良県下、全国に広まってほしい」との声も多く聞かれました。

実際に、全国の医療・福祉の関係者がやまと精神医療センターの研修に参加されているそうです。

今後の家族会について

今回の研修は、精神科病棟において患者さんが心穏やかに過ごせるよう支援し、緊急時には尊厳を守りつつ安全を確保する具体的な方法を学ぶ貴重な機会となりました。

今後も家族会として様々な学びと出会いを大切に、当事者とその家族、医療・福祉の関係者がより良い関係を築いていけるよう取り組みを継続してまいりたいと思っております。

やまと精神医療センター
家族会 松葉会

精神障害者の家族による家族のための電話相談 お気軽に電話ください
☎ 0742-51-5506 月・金曜 (休日/祝日はなし) 午前 10:30~午後 3:00

~8月家族会活動短信~

- ★ひだまり会 8月例会は休会。8/29に役員会6名参加。生駒市および生駒警察署への要望内容について話し合いました。どちらにもいろいろな意見が交わされまともらず、次回の検討課題となりました。
- ★西和家族会 8/6 当事者会の「虹の会」が開催された~家族会との懇談会~に4名参加。男性1名・女性3名のメンバーさんに温かく迎えて頂きました。「障害者を対象としたサービス」の資料を参考に利用者側の立場から説明されました。その後、参加者各々の体験を踏まえた自己紹介をして親睦を深め、次回の開催を約束して終了となりました。8/20 参加者7名「かごの屋奈良王寺店」でおしゃべり会を開催。当事者の子供さんについての話題があまり出ず、ご自身の体調や日常生活等のお話で楽しい会となりました。
- ★すみれ会 8/17 会員7名 見学者1名参加。まほろば会連絡会の報告後、見学に来られた方の問いかけに、会員が各々の体験を話しました。発症当時の頃を思い出し「あの頃は本当に大変だった。何がおこっているのか、わからなかった」と誰もが口にしていました。施設「えいびる」1階で期間限定(8/18~9/19 10時30分~15時 土日祝休み)で喫茶店を開くとの報告がありました。最後に「朧月夜」を合唱して終わりました。

- ★のぞみ会 8/2 9名(内2名は初めての参加) 高齢者の体の健康と心の健康について勉強会をしました。その後、新しい2名の参加者の話を聞かせていただき、皆で話し合いをしました。
- ★あらくさ会 8/23 参加9名 会長から、8月8日に奈良県福祉保険部一疾病対策課主催の「精神障害者アウトリーチ事業研修会」について、その内容の報告がありました。(県下の家族会から9名が参加) 加えて①来年度にこのアウトリーチ事業が、いずれかの保健所管内で精神病院に委託されてスタートすること ②9月9日には、県の疾病対策課と精神障害者に関する来年度の予算要望についての懇談会が開かれるので、このアウトリーチ事業についても話し合うことになるなどの説明がありました。その後の家族交流会では、問題はありながらもどうかひとり暮らしが継続している様子の報告、障害年金の更新時期が近づいてきたが本人があまり気に留めていない場合の対応について意見交換、その他に厳しい状況の事例報告もありました。話し合っすぐに解決できる問題ではありませんが、お互いに支え合い励まし合いながらの家族交流会でした。

※ ともしび会・ひだまり会・さくら会・天理こころの会・こすもす会・松葉会は、8月休会

まほろば連絡会・家族会の開催予定

家族会	9月	10月
まほろば会	13日(土)1330 大和郡山市民交流館2F	11日(土)1330 大和郡山市民交流館2F
ともしび会	21日(日)1330 はぐくみセンター	19日(日)1330 生涯学習センター
ひだまり会	20日(土)1330 ららポート	18日(土)1330 ららポート
さくら会	6日(土) みんなねっと全国大会に振替	19日(日)1330 三の丸会館
てんりこころの会))	10日(水)1330 桑サロン	18日(土)1330 桑サロン
西和家族会	27日(土)1330 王寺町やわらぎ会館	25日(土)1300 王寺町やわらぎ会館
すみれ会	21日(日)1330 大和高田市中央公民館	19日(日)1330 大和高田市中央公民館
のぞみ会	7日(日)1330 県心身障害者福祉センター	12日(日)1330 青垣生涯学習センター
家族会秋樹	18日(木)1330 地域活動センターのどか	未定
松葉会	6日(土) みんなねっと全国大会に振替	8日(水) 1200 やまと精神医療センター
あらくさ会	20日(土)1030 吉田病院きずなルーム	18日(土)1030 吉田病院きずなルーム